一般動詞の過去形(1)

【主な学習内容】

- ◎一般動詞(規則動詞)の過去形の作り方
- ◎一般動詞(規則動詞)の過去の基本文・否定文・疑問文

◆指導ページ P.8 ~ 11 ◆

学習内容

1 一般動詞の過去形

☆一般動詞(規則動詞)の過去形→〈動詞の原形+ed〉

「~した」と過去を表すときは、動詞の過去形を使う。

- (1) ed のつけ方
 - ① 〈原形+ed〉

play \rightarrow played, look \rightarrow looked, help \rightarrow helped, call \rightarrow called, work \rightarrow worked

② 〈e で終わる語+d〉

like \rightarrow liked, love \rightarrow loved, arrive \rightarrow arrived, hope \rightarrow hoped, live \rightarrow lived

③ 〈子音字+y〉で終わる語は、yをiにかえてedをつける。

study \rightarrow studied, cry \rightarrow cried, try \rightarrow tried, worry \rightarrow worried

④ 〈短母音+子音字〉で終わる語は、最後の子音字を重ねて ed をつける。 stop → stop**ped**, drop → drop**ped**, plan → plan**ned**

- (2) 語尾の(e)d の発音
 - ① [d]以外の有声音のあと…… [d]

lived, studied, enjoyed, opened, cleaned など。

② [t]以外の無声音のあと…… [t]

watched, liked, asked, worked など。

③ [t], [d]のあと…… [id]

wanted, needed, visited, started など。

(3) 過去を表す語(句)

yesterday「きのう」、~ago「~前に」、then「そのとき」、

last night「昨夜」,last week「先週」

♥ this, last などのついた「時」を表す副詞句は、通常前置詞をつけずに用いられる。

② 一般動詞の過去の否定文

☆〈did not[didn't]+動詞の原形〉

☆主語の人称・数に関係ない。

He **didn't go** to America last year. (彼は昨年アメリカに行きませんでした。)

♥ did not の短縮形は didn't

短縮形 did not=didn't

③ 一般動詞の過去の疑問文

☆〈Did+主語+動詞の原形~?〉 ②主語の人称・数に関係ない。

答え方は Yes, ~ did. / No, ~ didn't[did not].

Did they **open** the box then? (彼らはそのときその箱を開けましたか。)

— Yes, they did. / No, they didn't. (はい、開けました。/ いいえ、開けませんでした。)

4 疑問詞を用いた疑問文

(1) 疑問詞が主語でない疑問文の場合 → 〈疑問詞+did+主語+動詞の原形 ~?〉疑問詞のあとに〈did +主語+動詞の原形 ~?〉を続ける。

Where did you play baseball? (あなたたちはどこで野球をしましたか。)

─ We played it here. (ここでしました。)

(2) 疑問詞が主語の場合 → 〈疑問詞+動詞の過去形 ~?〉

〈主語+did.〉で答える。

Who cooked this fish? (だれがこの魚を料理しましたか。)

一 Tom **did**. (トムです。)

補足・留意事項など

•規則動詞

-(e)dをつけて過去形を作る動詞。 それ以外の動詞を不規則動詞という。

◆〈母音+y〉で終わる動詞の過去形は、そのまま ed をつける。

enjoy → enjoyed

- ②〈子音字+y〉で終わる動詞の過去形の作り方と混同しないように注意する。
- 過去形は主語の人称・数によって 形は変わらない。

過去の否定文は主語が何であっても did not[didn't]を用いる。

過去の疑問文は主語が何であっても Did ~? である。

一般動詞の過去形(2)

【主な学習内容】

- ◎一般動詞(不規則動詞)の過去形
- ◎一般動詞(不規則動詞)の過去の肯定文・否定文・疑問文

◆指導ページ P.12 ~ 15 ◆

学習内容

動詞は、〈原形+(e)d〉で過去形を作る規則動詞と、不規則に変化する不規則動詞の2種類に分けられる。

1 不規則動詞

〈現在〉 He goes to America every year. (彼は毎年アメリカに行きます。)

〈過去〉 He **went** to America last year. (彼は昨年アメリカに行きました。)

(1) 原形と過去形が同じ動詞を見分ける

文脈や過去を表す語(句), 3人称単数・現在形の(e)s などに注意して, 現在の文か過去の文かを見分ける。

She cuts the cake. (彼女はそのケーキを切ります。) 〔現在〕 She **cut** the cake. (彼女はそのケーキを切りました。) 〔過去〕

(2) 不規則動詞の例

① 形が変化するもの

begin(始まる) → **began** build(建てる) → **built** buy(買う) → bought catch(つかまえる)→ caught $do(t_{\delta}) \rightarrow did$ come(来る)**→ came** find(見つける) → found go(行く)→ went have(持っている)→ had know(知っている)→ knew leave(去る)→ **left** lose(失う) → lost make(作る)→ **made** meet(会う) → **met** see(見る)→ saw send(送る) → sent speak(話す)→ **spoke** take(取る) → took tell(話す) → told think(考える) → thought write(書く)→ wrote ② 形が変化しないもの cut(切る)→ cut, put(置く)→ put hit(打つ)→ hit, read(読む)→ read ②過去形の read の発音は[red]。

② 否定文・疑問文の作り方(不規則動詞)

shut(閉める)→ **shut**

☆規則動詞の場合と同じ形で did を用いて表す。

- (1) 否定文→〈主語+did not[didn't]+動詞の原形 ~.〉
- (2) 疑問文→〈**Did+主語+動詞の原形~?**〉
- (3) 答え方→〈Yes, ~ did. / No, ~ didn't[did not].〉
- ③ 疑問詞で始まる過去の疑問文(不規則動詞)
- (1) 疑問詞が主語でない疑問文の場合 → **〈疑問詞+did+主語+動詞の原形 ~?〉** 疑問詞のあとに〈did+主語+動詞の原形 ~?〉を続ける。

Where did you see him? (あなたはどこで彼を見たのですか。) ↑ ↑

疑問詞は文頭におく 動詞の原形

(2) 疑問詞が主語の疑問文の場合 → **〈疑問詞+動詞の過去形 ~?〉** 〈主語 + did.〉で答える。

Who saw him? (だれが彼を見たのですか。) ↑ ↑

文頭におく 動詞の過去形

— Tom **did**. (トムです。)

補足・留意事項など

• 不規則動詞

不規則に変化して過去形を作る動 詞を不規則動詞という。

• 頻度の高い不規則動詞から1つ1 つ覚えていくようにする。似たよ うな変化で分類することもできる。

(teach → taught catch → caught (sit → sat drink → drank swim → swam (tell → told sell → sold

- 過去の否定文, 疑問文の作り方は, 規則動詞の場合と同じである。
- 短縮形 did not = didn't
- 疑問詞が文頭にくる文の文末は下 げ調子で読む。
- •疑問詞で始まる疑問文の作り方は、 規則動詞の場合と同じである。

be 動詞の過去形・過去進行形

【主な学習内容】

- ◎be 動詞の過去形の基本文・否定文・疑問文
- ◎過去進行形の基本文・否定文・疑問文

学習内容

補足・留意事項など

◆指導ページ P.16 ~ 19 ◆

1 be 動詞の過去形

☆「~だった」「~にいた〔あった〕」と過去の状態を表すときは、be 動詞を過去形にする。

be 動詞の過去形:am,is → was,are → were

〈現在〉 〈過去〉

I am twelve years old. → I was twelve years old.

We are twelve years old. → We were twelve years old.

2 否定文

☆ be 動詞のあとに not をおく。

作り方は現在の文と同じ。

〈肯定文〉 He was happy. (彼は幸せでした。)

〈否定文〉 He was not happy. (彼は幸せではありませんでした。)

♡短縮形 was not=wasn't, were not=weren't

③ 疑問文と答え方

☆疑問文→〈Was[Were]+主語 ~?〉

答え方は Yes, ~ was[were]. / No, ~ wasn't[weren't].

Were you a student? (あなたは学生でしたか。)

- Yes, I was. (kv , $\mathsf{e}\mathsf{j}$ $\mathsf{v}\mathsf{l}$ k)
- No, I wasn't. (いいえ, そうではありませんでした。)

4 疑問詞を用いた疑問文

☆〈疑問詞+was[were]+主語~?〉

♥ who や what が主語のときは 3 人称単数扱いなので、be 動詞は was を用いる。

Who was in the room? (だれが部屋の中にいましたか。)

— My friends **were**. (私の友人たちがいました。)

5 過去進行形

☆「~していた」と過去のある時に進行中だった動作→〈was [were] +動詞の ing 形〉

I was studying English then. (私はそのとき英語を勉強していました。)

◇状態や感情などを表す動詞は進行形にしない。

「彼は船を持っていました。」 \rightarrow \bigcirc He had a boat. \times He was having a boat.

6 過去進行形の否定文

☆⟨was[were] not ~ing⟩

was[were]のあとにnotをおく。

They were not[weren't] playing tennis. (彼らはテニスをしていませんでした。)

7 過去進行形の疑問文

☆⟨Was[Were]+主語+~ing ...?⟩

Were you watching TV? (あなたはテレビを見ていましたか。)

— Yes, I was. / No, I wasn't. (はい、見ていました。/ いいえ、見ていませんでした。)

☆〈疑問詞+was[were]+主語+~ing ...?〉

What were you doing then? (あなたはそのとき何をしていましたか。)

-I was playing the guitar. (私はギターをひいていました。)

◇疑問詞が主語のときは、**〈疑問詞+was[were] ~ing …?〉**で表す。〈主語+was[were].〉で答える。

Who was talking with her? (だれが彼女と話していましたか。)

─ Her teacher **was**. (彼女の先生でした。)

How many people were singing? (何人の人が歌っていましたか。)

— Three people **were**. (3人でした。)

• be 動詞の過去形

 数
 単数
 複数

 1人称
 was

 2人称
 were

 3人称
 was

♥Tom and Jane は複数なので, 動詞は were になる。

Tom and Jane were students.

• 短縮形

was not = wasn't were not = weren't

- ♥ I was や You were などの短縮 形はない。
- •疑問文の作り方は、現在形のとき と同じ。
- 疑問詞が主語になる文
 - ①疑問詞が主語であるから, 疑問 詞のあとにすぐ動詞がくる。
 - ②疑問詞は3人称単数扱いであるから、動詞はwas。
- ③語順は肯定文と同じ。
- 現在進行形と過去進行形be 動詞の形がちがうだけで, ing 形はかわらない。
 - ・現在進行形…「~している」 〈is[am・are]+動詞のing 形〉
 - ・過去進行形…「~している」 〈was[were]+動詞のing形〉

who は3人称単数扱いであるから、be 動詞は was を使う。How many poeople は複数であるから、be 動詞は were を使う。

There is [are] \sim .

【主な学習内容】

◎There is[are] ~. の基本文・否定文・疑問文

◎How many を用いた There is[are] ~. の疑問文

◆指導ページ P.20 ~ 23 ◆

学習内容

補足・留意事項など

1 There is [are] \sim .

- ☆「…に〜がある〔いる〕」→「〜が」が単数のとき There is 〜. →「〜が」が複数のとき There are 〜.
- ◇過去の文は There was [were] ~. で表す。
- (1) 数えられない名詞の場合は、There is ~. で表す。

There is much **milk** in the bottle. (びんの中には牛乳がたくさん入っています。)

(2) 場所を表す語句は文末におく。

There is a book <u>on the desk.</u> (机の上に1冊の本があります。) 場所を表す語句

- (3) 特定のものや人について言うときは、There is[are] ~. はふつう使わない。
 - O Your book **is** on the desk.

(あなたの本は机の上にあります。)

- × There is your book on the desk.
- Those students **are** in their classroom. (あの生徒たちは教室にいます。)
- × There are those students in their classroom.
- (4) 場所を表す語句

in \sim (\sim の中に), on \sim (\sim の上に), under \sim (\sim の下に), near \sim (\sim の近くに) by \sim (\sim のそばに), along \sim (\sim に沿って), in front of \sim (\sim の前に)

water, milk などの数えられない 名詞は複数形がないので、〈There is \sim .〉になる。量の多少をいうと きは、some(ある程度の)、much (たくさんの)をつける。

• 数えられない名詞

特定のものと不特定のもの There is[are] ~. は the, my, your などを伴った「特定のもの」 を表す名詞には使えない。

2 否定文

\updownarrow There is [are] not \sim .

◇〈There aren't any + 名詞の複数形 ...〉は「~は1つもない〔1人もいない〕」という意味。 =〈There are no + 名詞の複数形 ...〉

There are not any books on the desk.

(机の上には1冊も本がない。)

= There are no books on the desk.

¶数えられない名詞の場合は There is not[isn't] any ~. / There is no ~. の形。

- 否定文の any 疑問文での any
 - **→**「いくつかの~」

否定文での any

→「1つも(~ない)」

3 疑問文

☆「…に~はありますか[いますか]」 → Is[Are] there ~?

答え方は、Yes, there is[are]. / No, there isn't[aren't].

Are there any books on the desk? (机の上に本がありますか。)

- − Yes, **there are**. (はい, あります。)
- No, there aren't. (いいえ, ありません。)

「~はありますか(いますか)」は 単純に「あるかないか」をたずね るときによく使われる疑問文。

4 「…に~はいくつありますか〔何人いますか〕」

☆いくつあるか[何人いるか]数をたずねる疑問文→〈How many+名詞の複数形+are there ...?〉

How many books are there on the desk? (机の上に本は何冊ありますか。)

— There are seven

(7冊あります。)

¶「…に何がありますか」とたずねるときは、〈What is+場所?〉とし、There is[are] ~. で答える。

What is in the box? (箱の中には何がありますか。)

• There is[are]の短縮形 There is = There's There are = There're

来 未

【主な学習内容】

- ◎未来を表す助動詞 will の基本文・否定文・疑問文
- ◎be going to ~の基本文・否定文・疑問文, Shall I[we] ~? / Will you ~? の文

◆指導ページ P.24 ~ 27 ◆

学習内容

1 will

☆「~するつもりだ」「~するだろう」→〈will+動詞の原形〉

♥will は助動詞で、いっしょに使う動詞は必ず原形になる。

〈現在〉 She plays the piano.

〈未来〉 She will play the piano. (彼女はピアノをひくでしょう。)

2 否定文

☆〈will not+動詞の原形〉

I will not[won't] go out today. (私はきょうは外出しません。)

3 疑問文

☆〈Will+主語+動詞の原形 ~?〉

will を主語の前に出す。答え方は Yes, ~ will. / No, ~ won't [will not].

Will you be busy tomorrow afternoon? (あなたはあしたの午後, 忙しいですか。)

— Yes, I will. / No, I won't [will not]. (はい, 忙しいです。/ いいえ, 忙しくありません。)

4 be going to ~

☆「~するつもり〔予定〕だ」(意志や予定),「~するだろう, ~しそうだ」(近い未来) **(be going to +動詞の原形)** be 動詞は主語によって使い分ける。

He **is going to** visit Kyoto next week. (彼は来週,京都を訪ねるつもりです。)

5・6 be going to ~の否定文・疑問文

☆ be 動詞のふつうの文の場合と作り方は同じ。

否定文→〈be 動詞 + not + going to ~〉/ 疑問文→〈be 動詞 + 主語 + going to ~?〉

Are you going to see him? (あなたは彼に会うつもりですか。)

— Yes I am

(はい, 会うつもりです。)

 $-N_0$, I am[I'm] not.

(いいえ, 会うつもりはありません。)

7 Shall I ~?

☆「(私が)~しましょうか」と相手に申し出る言い方。

Shall I open the door? (ドアを開けましょうか。)

— Yes, please. / No, thank you. (はい, お願いします。/ いいえ, けっこうです。)

8 Shall we ~?

☆「(私たちは)~しましょうか」と相手を誘う言い方。 = Let's ~. / How about ~ing?

Shall we go on a picnic? = Let's go on a picnic.

(ピクニックに行くのはどうですか。)

= How about going on a picnic?

— Yes, let's. / No, let's not. (はい, そうしましょう。/ いいえ, よしましょう。)

9 Will you ∼?

☆「~してくれませんか」(依頼)、「~しませんか」(勧誘)

Will you help us?

(私たちを手伝ってくれませんか。)

- Sure.

(いいですよ。)

- I'm sorry, I can't. (すみませんが,できません。)
- ♥Can you ~?も依頼を表す。よりていねいな依頼の表現として、Would you ~?や Could you ~? などがある。

• will

未来を表す助動詞。主語によらず will は変化しない。

補足・留意事項など

They will play the piano. She will play the piano.

• will の短縮形

I will = I'll

You will = You'll

He will = He'll

We will = We'll

They will = They'll

will not = won't

• 未来を表す語句 tomorrow「あした」

next week「来週」 next month「来月」

next year「来年」

next Sunday「今度の日曜日」

in the future「将来」

\bullet be going to \sim

「近い未来」を表すのに使う。 going には「行く」という意味は ない。

• Will you ∼?

Will you ~? の疑問文には

①単なる未来を表す。

「あなたは~するのでしょうか」

②主語 you の意志をたずねる。

「あなたは~するつもりですか」

③相手に頼んだり、誘ったりする。

「~してくれませんか」

「~しませんか」

の3つの使い方がある。

助動詞

【主な学習内容】

1 can

- ◎助動詞 can·may·must·should などの基本文および否定文・疑問文
- ◎同意語による書きかえ表現

◆指導ページ P.28 ~ 31 ◆

学習内容

- -

☆「~することができる」(可能),「~してもよい」(許可)

- (1) 〈can+動詞の原形〉= 〈be able to+動詞の原形〉
 - ♡ be 動詞は主語や時制によって使い分ける。
- (2) can の過去形は could。

未来は〈will be able to+動詞の原形〉(助動詞は並べて使えないため)。

- 〈現在〉 You can swim well. = You are able to swim.
- 〈過去〉 You **could** not swim. = You **were not able to** swim.
- 〈未来〉 You will be able to swim.

2 may

☆「~してもよい」(許可), 「~かもしれない」(推量)

You may use this room. (あなたはこの部屋を使ってもよい。)

She **may** know you. (彼女はあなたを知っているかもしれません。)

- (1) May I ~?で「~してもいいですか」と許可を求める言い方になる。
- (2) May I ~? には Sure. / I'm sorry, I can't. などで答える。
 - ○親が子どもに答えるときなどは、Yes, you may. (はい, よろしい。) / No, you may[must] not. (いいえ, いけません。) も使われる。

3 must

☆「~しなければならない」(義務)、「~にちがいない」(推量)

You **must** go now. (あなたはもう行かなければなりません。)

He **must** be sick. (彼は病気にちがいありません。)

- (1) must=have[has] to ②主語が 3 人称単数のときは has to ~ 否定形 don't[doesn't] have to は 「**~する必要はない**」という意味になる。
- (2) must の否定形 must not[mustn't] は、「~してはいけない」 (禁止)の意味になる。 You must not[mustn't] ~.=Don't ~.
- (3) **Must ~?** (~しなければなりませんか)
 - **─ Yes, ~ must**. (はい, しなければなりません。)
 - No, ~ don't[doesn't] have to. (いいえ、その必要はありません。)

4 should

You should not[shouldn't] use too much water.

(あなたは水を使いすぎるべきではありません。)

5 need

☆「~する必要がある」

疑問文と否定文で使われる。

You **need not** call her. (あなたは彼女に電話をする必要はありません。)

♡ need not = don't have to 「~する必要はない」

6 had better

☆「~したほうがよい」(忠告)

You had better stay here. (あなたはここにいたほうがよい。)

7 would like to

☆「~したいものです」の意味を表すていねいな表現。

I'd like to have a cup of coffee. (私はコーヒーを1杯飲みたいのですが。) ♡ I'd=I would Would you like to study in America? (あなたはアメリカで勉強したいのですか。)

•1つの助動詞でも意味が複数あるため文脈をよく読み取ること。

補足・留意事項など

• 短縮形 cannot = can't must not = mustn't

should not = shouldn't

- must not~ 「~してはいけない」
- do not[don't] have to ~= need not「~する必要はない」

• need

肯定文では一般動詞として,否定文・ 疑問文では助動詞として用いられる。 He needs to study English today. (彼はきょう英語を勉強しなければならない。)

- had to ~ 強い言い方なので目上の人には使 わない。
- would like to ~は want to ~よ りていねいな言い方。

疑問詞を使った文

【主な学習内容】

- ◎重要な疑問詞の表現
- ◎疑問詞を用いた疑問文に対する答え方

◆指導ページ P.32 ~ 35 ◆

学習内容

■ What ~?

☆補語,目的語,主語(もの)をたずねる。「何,何が,何を[に]」

What are you doing? (あなたは何をしているのですか。)

〈What+名詞~?〉で「何の~」という意味になる。

Ŷ What time ~? で**「何時に~**」と時刻をたずねる表現になる。

What time did you get up this morning? (けさは何時に起きましたか。)

2 Where ∼?

☆場所をたずねる。「どこに〔へ〕, どこで」

♥場所を表す語句を使って答える。

Where do you live? (あなたはどこに住んでいますか。)

— I live **near the station**. (駅の近くに住んでいます。)

3 When ~?

☆時をたずねる。「いつ」

♡時を表す語句を使って答える。

When will you leave Japan? (あなたはいつ日本を発つのですか。)

— Next Sunday. (今度の日曜日です。)

4 Who ∼?

☆補語,目的語,主語(人)をたずねる。「だれ,だれが,だれを[に]」

♥Who+一般動詞 ~? でたずねられたら、主語+do[does / did]. で答える。

Who lives next door? (となりにはだれが住んでいますか。)

— Ms. Yamamoto does. (山本さんです。)

5 Whose ~?

☆だれの所有かをたずねる。「だれの、だれのもの」

↑所有格や所有代名詞を使って答える。

Whose dictionary is this? (これはだれの辞書ですか。)

─ It's **Judy's**. (それはジュディのものです。)

6 Which ~?

☆一定数のうち「どれか」をたずねる。「どちら、どれ、どちらの、どの」

Which is your bag? ($ensuremath{\mathcal{E}}$ to $ensuremath{\mathcal{E}}$ to ensur

— This is **mine**. (こちらが私のものです。)

7 How ∼?

☆方法や状態をたずねる。「どうやって(方法), どのように(状態)」

◇(How+形容詞・副詞~?)で「どのくらい~(程度・数量)」という疑問文を作る。

How many ~? (数), How old ~? (年齢), How much ~? (値段・量)

How tall \sim ? (高さ・身長), How long \sim ? (長さ・期間), How often \sim ? (頻度・回数)

How far ∼? (距離)

How many CDs do you have? (あなたは CD を何枚もっていますか。)

─ I have **seven** (CDs). (7枚持っています。)

8 Why ∼?

☆理由をたずねる。「なぜ」

♥Because ~. (なぜなら~だから)で答える。

Why are you smiling? (あなたはなぜほほえんでいるのですか。)

— **Because** I am happy. (私は幸せだからです。)

• 疑問詞

疑問代名詞, 疑問形容詞, 疑問副 詞の3種類がある。

補足・留意事項など

• 疑問代名詞

who「だれ」、「だれが」、「だれを[c]」 what 「何」、「何が」、「何を[c]」 which 「どちら」、「どれ」

♥who は人にだけ用いられる。 what, which は人, もの, 動物 に用いられる。

• 疑問形容詞

whose「だれの〜」
what「何の〜」
which「どの〜」
あとに名詞をともなう。

• 疑問副詞

when 「いつ」
where 「どこに[へ]」, 「どこで」
why 「なぜ」
how 「どうやって」, 「どのように」

what は不特定のものの中から「何か」を問う。which は不特定の中から「どれか」を問う。

名詞・冠詞・代名詞

【主な学習内容】

◎名詞の分類と冠詞 the の用法

◎いろいろな代名詞の用法

◆指導ページ P.36 ~ 39 ◆

補足・留意事項など

学習内容

1 名詞

☆普通名詞,集合名詞,固有名詞,物質名詞,抽象名詞がある。

(1) 普通名詞……一定の形や区切りをもつ数えられる名詞。 desk, dog, house, apple, car など

(2) 集合名詞……同種類のものの集合体を表す名詞。数えられるものと数えられないものがある。 people (人々), family (家族), crowd (群衆), police (警察) など

(3) 固有名詞……人名や地名などを表す名詞。ふつうは数えられない。 Jane, Japan, Lake Biwa(琵琶湖), Mt. Fuji(富士山) Yoyogi Park(代々木公園)など

(4) 物質名詞……物質の名で、一定の形や区切りがないもの。ふつうは数えられない。 water, snow, milk, sound(音), meat(肉)など

(5) 抽象名詞……性質や状態, 観念などを表す名詞。ふつうは数えられない。 fun(楽しみ), peace(平和), music(音楽), information(情報), art(芸術) など

2 冠詞

☆ a, an を不定冠詞, the を定冠詞という。

- (1) 初めて出てくる,不特定の単数の数えられる名詞には不定冠詞 a[an]をつける。
- (2) すでに出てきた名詞や前後の関係からそれとわかる名詞、修飾語句で限定された名詞には 定冠詞 the をつける。

I have a camera. The camera is old. (私はカメラを持っています。そのカメラは古いです。)

♡ the sun(太陽), the world(世界)のように、唯一のものを指す名詞にはふつう the をつけ る。

3 代名詞

(1) 人やもののかわりに用いられる代名詞を人称代名詞といい,人称・数・格によって変化す る。

人称	数格	主格	所有格	目的格	所有代名詞	再帰代名詞
1人称	単数	Ι	my	me	mine	myself
	複数	we	our	us	ours	ourselves
2人称	単数	you	your	you	yours	yourself
	複数	you	your	you	yours	yourselves
3人称		he	his	him	his	himself
	単数	she	her	her	hers	herself
		it	its	it		itself
	複数	they	their	them	theirs	themselves

(2) it はすでに出てきた特定の単数の名詞を表す。

不特定の単数の数えられる名詞と同種類のものを表すときは one を用いる。

♀ one は前に出た名詞のくり返しをさけるときによく使われる。

This car is my father's and that **one** is my mother's. (one = car)(この車は私の父のもので、あの車は私の母のものです。)

- (3) another は数えられる名詞を指して、「別の1つ」「もう1つのもの」の意味を表す。
- (4) 注意すべき other の用法

one \sim , the other ... 「(2つのうち)1つ[1人]は \sim , 残りの1つ[1人]は…」 one ~, the others ... 「(3つ以上のうち)1つ[1人]は~, 残りの全部は…」

some ~, others ... 「~するものもあれば, …するものもある」

名詞

人やものの名前を表す。

• 集合名詞

①単数と複数の両方があるもの He has a large family. (彼は大家族をもっています。) There are 50 families in this village.

(この村には50家族がありま す。)

②形は単数でも意味は複数になる 40

His family are all well. (彼の家族はみな元気です。)

• 物質名詞

容器や単位を表す語を用いて量を 表す。

a cup of $\sim \lceil カップ1杯の~ \rfloor$ a glass of \sim 「コップ1杯の \sim 」 a piece of ~「1枚の~」

a sheet of $\sim \lceil 1$ 枚の $\sim \rfloor$

• 冠詞の省略

数えられる名詞の単数はふつう a. an をつけるが、次の場合は省略 される。

①呼びかけ

②家族・血縁関係を表す語 father, mother

③食事の名 dinner, breakfast ◇ただし、形容詞がつくと冠詞 がつく。

a light breakfast「軽い朝食」

④建物,場所が本来の目的を示す

go to church「教会へ行く」 go to school「学校へ行く」

⑤地位, 官職を表す語 Prime Minister「総理大臣」

• 代名詞

名詞のかわりに用いられる。 主語,補語,目的語になる。修飾 語になるときもある。

数量を表す形容詞・副詞

【主な学習内容】

- ◎数量を表す形容詞の使い方,物質名詞の量の表し方
- ◎数量を表す副詞の使い方

◆指導ページ P.40 ~ 43 ◆

学習内容

some と any

☆「いくつかの、いくらかの」

some は数えられる名詞・数えられない名詞の両方に使う。 some はふつう肯定文で使う。疑問文や否定文では any を用いる。

We have **some** bread, but we **don't** have **any** butter.

(パンはありますが、バターはありません。)

2 many & much

☆「多くの」, 「たくさんの」→ many は数えられる名詞に, much は数えられない名詞に使う。 Many people believe so. (多くの人がそう信じています。)

Do we have **much** time? (私たちに時間はたくさんありますか。)

♥ a lot of も同じ意味を表し、数えられる名詞・数えられない名詞のどちらにも使える。

3 few と little

☆ few は数えられる名詞に、little は数えられない名詞に使い、数量が少ないことを表す。

few や little の前に a がつくかつかないかで意味がかわる。

few \sim , little \sim \rightarrow $\lceil \sim$ がほとんどない」(否定的) a few \sim , a little \sim \rightarrow $\lceil \sim$ が少しある」(肯定的)

She made **few** mistakes. (彼女はほとんど間違えませんでした。)

She made **a few** mistakes. (彼女は少し間違えました。)

I have **little** money. (私はお金を<u>ほとんど</u>持っていません。)

I have **a little** money. (私はお金を<u>少し</u>持っています。)

4 物質名詞の量の表し方

☆物質名詞の量は、量を表す単位を使って表す。

物質名詞は数えられないので、量を表す必要があるときは、 \mathbf{a} cup of $\mathrm{coffee}(\pi)$ coffee $\mathrm{coffee}(\pi)$ のコーヒー)のように量を表す単位を使う。

◇複数の意味を表すときは単位を表す語を複数形にする。

two pieces of chalk 「2本のチョーク」

three sheets of paper 「3枚の紙」

Ŷその他の物質名詞の単位を表す語

a glass of water 「1杯の水」

a bottle of wine $\lceil 1 \, \text{\it U} \, \text{\it L} \, \text{\it O} \, \text{\it T} \, \text{\it L} \, \text{\it L} \,$

5 副詞

☆副詞は動詞・形容詞・他の副詞を修飾し、状態・場所・時・頻度・程度などを表す。また文 全体を修飾することもある。

very(とても), early(早く), fast(速く), slowly(ゆっくりと), too(あまりに~)など。

骨頻度の副詞

頻度を表す副詞はふつう、be 動詞のあと、一般動詞の前におく。

(助動詞がある場合は助動詞のあと。)

always(いつも), usually(たいてい), often(しばしば), sometimes(ときどき)など。

He is **sometimes** late for school. (彼はときどき学校に遅刻します。)

They **often** go to church. (彼らはよく教会へ行きます。)

¶「~もまた」の意味を表す副詞は、肯定文では too、否定文では either を使う。

I like coffee, **too**. (私もコーヒーが好きです。)

I don't like coffee, **either**. (私もコーヒーが好きではありません。)

• 疑問文の中の some

物事を勧めたり依頼している場合 や, 肯定的な返事を予想している 疑問文で使う。

補足・留意事項など

Will you have some coffee? (コーヒーはいかがですか。)

•数量を表す形容詞 数えられる名詞については「数」 を、数えられない名詞については 「量」を表す。

• 数量を表す形容詞

①不定数量を表すもの 数を表すもの→ many, few (普通名詞を修飾)

量を表すもの→ much, little (物質名詞, 抽象名詞を修飾)

②定数量を表すもの

one, two, first, second など

• 副詞

動詞・形容詞・他の副詞などを修 飾する。副詞がどの語句を修飾し ているかをよく見きわめる。

不定詞

【主な学習内容】

◎不定詞の用法(名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法)

◆指導ページ P.44 ~ 47 ◆

学習内容 補足・留意事項など

1 名詞的用法の不定詞

☆「~すること」の意味を表し、文の主語、目的語、補語として名詞のような働きをする。

(1) To walk is good for our health. (歩くことは健康によい。)

主語

I like to play tennis. (& to play tennis.)

目的語

My dream is to become a singer. (私の夢は歌手になることです。)

補語

♡My dream = to become a singer の関係(主語 = 補語の関係)

(2) 不定詞が表す主語の部分が長い場合には、〈It is ... to ~.〉の形で表す。このとき、It=to ~の関係がある。

To learn a foreign language is fun.

(外国語を学ぶことは楽しい。)

= It is fun to learn a foreign language.

(3) よく使われる不定詞の名詞的用法

like to ~ 「するのが好きだ!

want to ~ 「~したい」

try to ~ 「~しようとする〔努める〕」

begin[start] to ~ 「~し始める」など。

He **tried to open** the window. (彼は窓を開けようとしました。)

I want to go to bed now. (私はもう寝たい。)

2 副詞的用法の不定詞

☆「~するために」(目的)、「~して」(原因)などの意味を表し、副詞のような働きをする。

I went there to see him. (私は彼に会うためにそこに行きました。) 彼に会うために(目的)

I'm very glad to hear that. (私はそれを聞いてとてもうれしいです。) それを聞いて(原因)

③ 形容詞的用法の不定詞

☆「~するための、~すべき」の意味を表し、形容詞のような働きをする。

- (1) 〈~thing+形容詞〉を修飾するときは、〈~thing+形容詞+不定詞〉の語順になる。 I want **something cold to drink**. (私は何か冷たい飲みものがほしい。)
- (2) 前置詞が必要な形容詞的用法の不定詞

He didn't have any friends **to talk with**. (彼には話をする友達がいませんでした。)

♡friends to talk with (話をするための友達) ← talk with friends (友達と話す)

I want a chair **to sit on**. (私は座るいすがほしい。)

♥a chair to <u>sit on</u> (座るためのいす) ← <u>sit on</u> a chair (いすに座る)

•不定詞

〈to+動詞の原形〉の形をとる。

- ・名詞的用法
- ·副詞的用法
- ・形容詞的用法 の3つの用法がある。
- to play tennis, to get up early in the morning などのように不定詞 のあとに語句が続く場合には、ひ とまとまりで不定詞として考える とわかりやすい。
- Why ~? に対する答え方 不定詞を使って答えることができる。
 Why did you go to the shop?
 (あなたはなぜ店に行ったのですか。)
 To buy a bag.
 (かばんを買うためです。)
- 前置詞が必要な形容詞的用法の不 定詞…「to+自動詞」

live in「~に住む」、talk with「~と話す」などの動詞はもともと自動詞なので、目的語をとることはできないが、前置詞や副詞を加えてはじめて他動詞のような意味をもつ。